

1回

ここらへんで繁殖のお話し

(有)シェパード 獣医師 松本大策

みなさんお元気ですか？鳥インフルエンザなんかにかかっちゃうととっても危険だそうですね。牛さんでも同じなのですが、病原体と接触する機会が多いほど、当然その病気にかかりやすくなります。ですから、牛さんの場合は、各地から子牛が集まるセリ市なんてのは病気をもらう危険性が高いのです。人間の場合は、保育園や幼稚園、学校などで風邪をもらってくることが多いのと同じです。みなさんは、そういう危険な場所(バーゲン会場なども危険かも)から帰ったら、手洗いとうがいを忘れずに実施しましょう。特にウイルスは手や顔に付着して運ばれるので、手洗いや洗顔は効果的だそうです。

さて肥育のお話を続けてきましたが、ここいらで少し繁殖のお話しをしましょう。題して「牛さん版 性教育！(かなりエッチ編←うそ)」です。

母牛の繁殖の仕組み

繁殖経営の基本といえば、繁殖成績を良くすることと子牛をきちんと育成することです。まずお母さんの方から考えてみましょう。

牛(ここで考えるのは黒毛和牛です)は、生後9ヶ月齢程度で性成熟を迎えます。まあ、身体が大人になったということですね。ただし、あまり早く受胎させてしまうと、母体の発育が阻害されたり、分娩時の事故が増えたりするため、通常は14～15ヶ月齢程度まで待って種付けをします。企業畜産などでは10ヶ月齢程度で人工授精して一産取り肥育をするところもありますが、やはり流産や分娩事故が多いようです。繁殖経営の方でしたら、最初の種付けは少しくらい遅らせても、その牛さんの生涯成績(連産性)で稼いだ方が経営的には良いと思います。

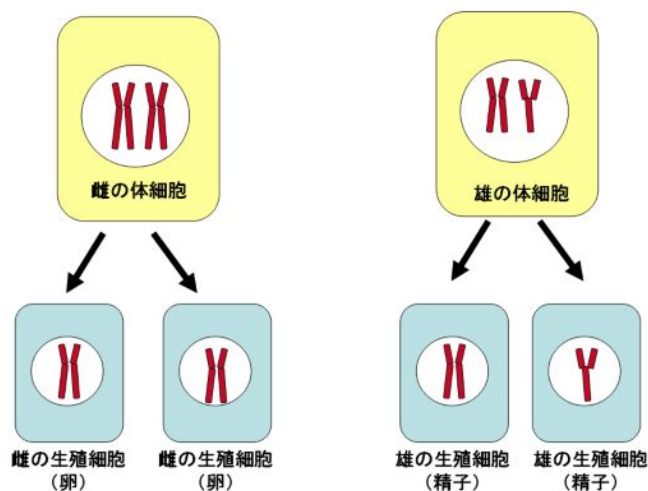
さて、繁殖とはどういう事か、もう少し考えてみましょう。生き物というのは、とことん突き詰めると「遺伝子情報」なのです。(あ、心とか魂のことは今は考えません。心とか魂の入れ物である生き物という器の話です)遺伝子というのはそれぞれの生き物の設計図です。それぞれの生物によって遺伝子は異なりますし、細かい部分を見ると、同じ牛さんでも1頭1頭違います。それが個性なのですね。

遺伝子は、生き物の身体を形作る細胞一つ一つの中にある「核」のなかに染色体という形で含まれています。染色体というのは遺伝子(DNA)が絡んで太くなったもので、必要なときにはほぐされて設計図を読みとります。ややこしいですね。別に覚えなくてもいいですから気楽に読んでください。

ふつう、生物の細胞の核には染色体が2つ並んでいるのですが、子孫を作るときに

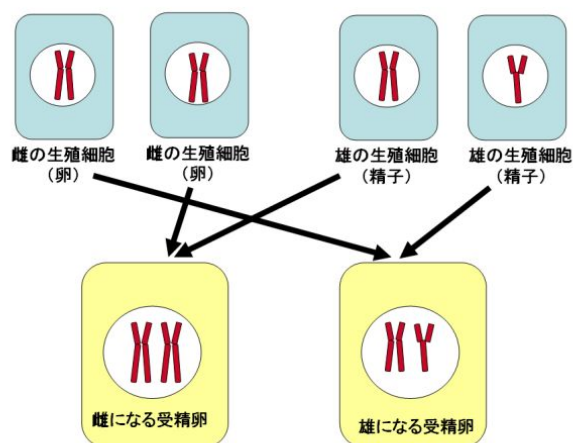


‘æ’æ



染色体とは遺伝子が絡み合ったもの

が「受精卵(最近では胚という言い方がポピュラーです。英語でエンブryoといいますが、受精卵移植のETとはエンブryo・トランスファーの略です。)」です。ちなみに、雌はX染色体しか持っていないが、雄はX染色体とY染色体という2種類の染色体を持っ



それぞれの生殖細胞が合体して受精卵に

のは男の仕事」って、あれっ？字がちがうか？ほ乳類の場合、卵も精子も外界の刺激に弱く、すぐに死んでしまうので体内で受精をします。これが交尾(ほらそこ、顔を赤らめないで。こっちが恥ずかしくなるから)です。牛さんの場合、ほとんどが人工授精ですから、精子を人間が採取して、しかも希釈して凍結して保存します。ですから、精子を採取する際も、希釈や凍結する際も、手際よく、空気に触れさせない、精子を死なせない希釈液を使う、などの工夫が必要なのですね。

牛さんの場合、精子はストローに詰められていつでもスタンバイしていますから、来月は雌の「卵」がどのように用意されるかのお話に移りましょう。卵巢のお話です。

は、細胞分裂の時に染色体が1個しかない細胞を作ります。この染色体1個の細胞が、いわゆる生殖細胞といって、雌が作るのが「卵」、雄が作るのが「精子」ってやつです。それをもって、精子と卵が合体して新しい染色体の組み合わせ(2個1組)を持つ細胞が誕生します。これが「受精」で、できた新しい細胞

ています。このY染色体を受け継ぐと雄になりますから、子供の性別は、雄の方の生殖細胞(精子)で決定されます。

精子にはシッポがあつて卵のところまで泳いでいって一番早く卵にたどり着いた精子が「受精」します。魚の場合は水の中で卵を産むので、雄はその卵に精液をかけることで受精します。

よく言うでしょ？「生死をかける

